

研究・調査報告書

報告書番号	担当
3 3 3	独立行政法人酒類総合研究所
題名（原題／訳）	
Development and initial validation of the hangover symptoms scale: prevalence and correlates of hangover symptoms in college students. 二日酔い症状スケールの開発と確認：大学生における二日酔い症状の罹患率と関連	
執筆者	
Slutske WS, Piasecki TM, Hunt-Carter EE.	
掲載誌（番号又は発行年月日）	
Alcohol Clin Exp Res. 2003 Sep;27(9):1442-50.	
キーワード	
二日酔い、アルコール、二日酔い症状	
要 旨	
<p>二日酔いは皆が知っている一般的なアルコールによる弊害であるがアルコールの研究においてあまり注目されていない。これは飲酒後の朝に起こる共通の症状や生理的影響など二日酔い症状の標準測定法がないということに関連していると考えられる。本研究では新たに二日酔い症状尺度（Hangover Symptoms Scale; HSS）を検討した。被験者は現在飲酒している 1230 人の大学生（62%が女性、91%カフカス人）である。被験者には過去 12 ヶ月の間の 13 の異なる二日酔い症状の発生頻度を記した自己報告形式の目録に記入してもらった。さらに、アルコールに関連した経歴、アルコールを摂取したことに起因した問題、家族のアルコールに関連した問題を申告してもらった。その結果、13 の異なる二日酔い症状の他に 5 つの共通する経験があることが明らかになった。3 つの最も共通な症状は喉の渇き/脱水、通常以上の疲れ、頭痛である。HSS で最も高いスコアであったのは飲酒頻度や酔いと有意な相関があり、飲酒時のアルコール摂取量、アルコールに関連した個人や家族の問題との関連性も観察された。また女性は男性よりも HSS スコアが高くなっていた。以上の結果から HSS は形容的に述べられた共通の二日酔いの効果を捉えていると考えられる。HSS が二日酔いの頻度、関連性、因果関係を更に明らかにする二日酔いの有効な評価方法として手軽に取り入れられることが期待される。また、研究室で HSS 用語の再評価を行い本研究で得られた二日酔い概要の調査による用語と研究室の間のギャップを埋める研究が更に必要であると思われる。</p>	